南部吉助とはどんな人物だろうか

１８４９年から行われた福岡大堰くぐり穴用水路の大改修工事を指導した吉助とは、どんな人物だったのでしょうか。

吉助は、およそ２００年前の１７９６年に今の岩手県和賀町の後藤村に生まれました。そのころは、岩手県の県南を南部と言いましたので、吉助は「南部(生まれの)吉助」と呼ばれました。「水神」の碑文に「潜穴掘方主立　南部吉助」とあるのはそのためです。和賀町には、奥寺堰(１６７７年完成)という古い堰があります。この堰から流れるゆたかな水が広大な美田をうるおしています。吉助は、おさないころから、ふるさとのこのゆたかな流れを見て育ったのでしょう。

やがて、大人になった吉助は、後藤村の仲間たちと一緒に各地の土木工事に参加するようになりました。そして、しだいに高度な技術を覚えて、すぐれたくぐり穴工事の技術者集団のリーダーとして活躍するようになったのです。

記録に残っているものでは、

- 1825～30年　今の青葉区熊ケ根に来て堤防工事や川崎堰のくぐり穴改修工事をしたようです。
  (残念ですがくわしくは分かっていません)
- １８４４年　岩手県の和賀町で堤工事をしました。
- １８４７年　仙台藩の四ツ谷堰(市の中心部を流れる用水路)のくぐり穴改修工事をしました。吉助はここですぐれた工法を学んだようです。
- １８４９年　10月から再び仙台に来て福岡大堰のくぐり穴改修工事にとりかかり、翌年２月に完成させました。このとき吉助５３才でした。

この後、吉助たちは、三本木原(今の青森県十和田市)の開拓に参加し、多くの新田を作りました。

１８５９年２月、吉助は６３才でなくなりました。

吉助は、四ツ谷堰工事で得たお金で１８４９年に家を新築しました。その家は１９８５年にとりこわされましたが、そのとき大発見がありました。ふすまの裏張りから吉助が書いたたくさんの文書が見つかったのです。
こうして１３０年前のことが分かったのです。